



獨逸ニ於ケル土地制度ノ發達ノ梗概(2)

美濃部，達吉

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 2(3):285-295

(Issue Date)

1907-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051118>



獨逸ニ於ケル土地制度發達ノ梗概 (其二)

東京帝國大學法科大學教授

法學博士 美濃部達吉

第三節 中世ノ獨逸帝國時代

中世ノ獨逸帝國ハ佛蘭西、伊太利ナドノ他ノ歐洲大陸ノ諸國ト同シク封建制度ノ世ノ中デアツタ。封建制度ノ特色ハ第一ニハ土地保有ノ制度ガ著ルシク特異ナルニト、第二ニハ公法上ノ權利義務ガ土地ノ保有ニ附隨スルコト、ノ二ノ點ニ歸スルコトガ出來ル。

第一ニ封建ノ社會ニ於ケル土地保有ノ狀態ハ著ルシク他ノ社會トハ異ナツテ居ルノデ即チ土地ノ保有者ハ多クハ其ノ土地ノ上ニ完全ナル所有權ヲ有ツテ居ルノデナク、種々ノ名義ニ於テ之ヲ最高所有權者カラ受領シテ居ルノデアル。土地保有ノ名義ニモ色々ノ種類、色々ノ階級ガアツテ之ニ伴フ權利義務モ甚ダ様々デアルガ、其ノ最高ノ階級ニ在ルモノハ國王カラ直接ニ莫大ノ領地ヲ受領シテ居ル

藩主。藩主ハ其ノ領地内ニ於テハ殆ンド完全ナ統治權ヲ持テ居ルノデアル。藩主ハ其ノ領地ノ中カラ更ニ其ノ家來ニ其レ々相當ノ領地ヲ與ヘ此等ノ家來ハ又其レ々自分ノ家來ニ自分ノ與ヘラレタ領地ノ中カラ更ニ相當ノ領地ヲ分チ與ヘルトイフ風デ其ノ土地ヲ受領シテ居ル者ハ給地者ニ對シテ主從ノ關係ヲ有シ忠誠ノ義務ヲ負フノデアル。即チ上ハ全國ノ最高ノ領主タル國王カラ下ハ町人百姓ニ至ル迄上下君臣ノ階級ガ層々相重テ居ルノデ、土地保有ノ關係モ亦同様ニ階級ヲ爲シテ居ルノデアル、土地保有者ハ土地ノ上ニ完全ナル使用收益ノ權利ヲ有スルバカリデサク、多クハ世襲ノ權利デ、相續モシ讓渡スコトモ出來ルノデアルガ、尙完全ナル所有權ヲ有ツテ居ルノデハナク、必ラズ給地者ニ對シテ軍役ニ服スルノ義務トカ經濟上ノ給付義務トカノ或ル條件ニ服スルノデアル。即チ法律學者ノ所謂用益所有權(dominium utile)ヲ持テ居ルニ止マリテ最高所有權ハ給地者ニ屬スルノデアル。最モ封建時代デモ完全ナ自由所有地ガ全ク消滅シタノデハナク、殊ニ獨逸デハ佛蘭西ノ様ニ *Nulle terre sans seigneur* (領主ナケレバ土地ナシ)トイフ格言ガ行ハレテ、若シ自由所有地タルコトノ證據ガナケレバ當然ニ領主ガ最高所有權ヲ

有スルモノト推測セラル、トイフ様ナ狀態ニハ嘗テ達シタコトハ無カツタノデアル。ケレドモ自由所有地ハ寧ロ僅少ノ部分ノミニ止リテ全國ノ土地ノ大部分ハ種々ノ名義ノ封建的保有關係ノ下ニ立ツタノデアル。

第二ニ土地ノ保有權ハ決シテ單純ナル私法上ノ權利デハナク殆ンド凡テノ公法上ノ權利義務ガ土地ノ保有ニ附隨シタノデ、是ガ封建制度ノ第二ノ最も重要ノ特色デアアル。大藩主ガ其ノ藩内ニ於テ殆ンド完全ノ統治權ヲ持テ居ツタコトハ前ニ述べタ通りデ藩ハ其レ自身ニ一國家ノ如キ形ヲ爲シテ居タ。藩主ノ下ニ於テ藩主カラ土地ヲ受領シテ居タ者モ稍大キナ土地ノ領主トナツテ居ルモノハ其ノ領地内デ或ル程度ノ裁判權ヲ行ナツテ居タノデアル。其外警察權、課稅權ナド凡テ公ノ權力ニ屬スベキ作用ハ皆土地保有ニ伴フ權利デアツタ。騎士トシテ軍役ニ從フ能力、裁判役トシテ裁判ニ與ル能力ノ如キモ亦土地ノ保有ニ附隨スルノデアアル。ソレデアルカラ此ノ時代デハ公法ト私法トハ全ク混同シテ、性質上ハ物上の性質ヲ持タナイ法律關係ヲモ物權化セシメテ權利ト云ヘバ即チ不動產物權デアリ、義務ト云ヘバ即チ物上ノ義務デアルトイフ様ナ狀態デアツタ。

以上ノ如キ有様デアルカラ封建時代デハ土地ガ凡テノ社會組織ノ中心點ヲ爲シテ居ルノデ、土地制度ハ實ニ私法上ノミナラズ公法上ニモ根本的ノ關係ヲ有ツテ居ルノデアル。封建時代ノ土地保有ノ狀態ハ僅少ナル自由所有地ノ外ハ種々ノ階級ニ分カレテ居タコトハ前ニ述ベタ通デアルガ、大別スレバ三ニ分カツコトガ出來ルノデ即チ(一)武士ノ保有地 (Lehn, fief, feudum) (二)普通民即チ町人百姓ノ保有地及ビ(三)農奴ノ保有地デアル。保有者ノ身分ノ階級ガ異ツテ居ルニ隨テ土地ノ保有モ亦其ノ關係ヲ異ニシテ居ルノデ、武士ハ此ノ時代ノ貴族デアルカラ其ノ保有關係モ亦最モ高等ナルモノデアル、余ハ之ヲ封地ト稱スル。以下先ヅ封地ニ付テ其ノ制度ノ大要ヲ述ベテ後ニ農民農奴ノ土地保有ノ狀態ニ移ラウト思フ。

第一 封地制度

封地制度ノ起源ニ付テハ第二節ニ述ベタ通りデ、初メニハ一般ニ Beneficium トイフ名稱ガ行ハレテ居タガ、第十一世紀頃カラハ Feudum トイフ名稱ガ行ハレル様ニナツテ、第十三世紀ニ至ツテハ Beneficium ノ名ハ全ク消滅シテ Feudum ノ名ガ之ニ代ハルコト、ナツタ。普通ノ獨逸語デハ Lehn ト謂ツテ居ル。

Lehn トハ、當事者ノ一方ガ土地ハ保有權又ハ其ノ他繼續シテ收入ノ財源トナリ得ヘキ權利ヲ相手方ニ給與シ、相手方ハ之ニ對シテ忠誠ノ義務 (fidelitas) 及ビ之ニ伴フ、或ル種類ノ義務ヲ負フ、二人間ノ法律關係ヲ謂フノデアアル之ヲ給與スル所ノ者ハ之ヲ Lehnsherr, seigneur, dominus ト謂フ、假リニ封主ト譯スル其ノ給與ヲ受ケテ忠誠ノ義務ヲ負フ者ハ之ヲ Lehnsmann, vassal, vasallus ト謂フ、假リニ封臣ト譯スル其ノ給與セラル、所ノ權利ハ法律關係其物ト同様ニ Lehn, fief, feudum ト謂フ、前カラ封地ト譯シ來ツタガ必スシモ土地ハカリデハナイカラ或ハ封祿ト譯スル方カ適當カモ知レヌ。封主、封臣、封祿及ビ忠誠義務ノ四種ハ其ノ關係ニ缺クベカラザル要素 (essentialia feudi) デアル。此ノ外ニ尙軍役ノ義務ヲ初メトシテ通常其ノ關係ニ伴フ所ノ種々ノ權利義務ガアル。最高ノ封主タルモノハ國王デ、凡テ封祿ハ皆國王ニ其ノ最高ノ源ヲ發シテ居ルノデアアル。國王ニ基イテ居ナイモノハ眞正ノ封祿トハ看做サレナイ。

封祿即チ給與ノ目的物トナルモノハ第一ニハ土地ハ保有デアアルケレドモ、其ノ外繼續的ニ收入ノ財源タルベキ權利ハ何ニ依ラズ封祿タルコトヲ得ルノデアアル、

就中官職ハ殆ンド凡テ封祿トシテ與ヘラレタ、封建時代ノ藩主ハ元トハ國王ノ地方官ノ職ヨリ出タノデアツテ、ソレガ土地ト共ニ封祿トシテ與ヘラル、コト、ナツタノデアアル。其ノ外裁、判權、關稅權、貨幣鑄造權等ノ百ノ權力又ハ土地ニ屬スル收入、即チ地代、十分一稅 (Zehnten) 等ノ年金、寺院及ビ僧房ノ收入ナドモ封祿トシテ與ヘラレタ。封祿トシテ他カラ與ヘラレタモノモ更ニ他ノ者ニ自分カラ又封祿トシテ與ヘルコトモ出來ルノデ、即チ再封祿 (Afterlehn, subinfeodation) トイフコトハ特別ノ例外ノ外ハ許サレタノデアアル。唯裁、判權ハ第三者以上ニ封與スルコトヲ許ルサナイ (nicht über die dritte Hand) 第三者トイフノハ國王ヲ第一者トシテ計算スルノデアツテ、即チ國王ノ直接ノ封臣タル藩主ダケハ其ノ國王カラ與ヘラレタ裁判權ヲ更ニ自分ノ臣下ニ附與スルコトハ出來ルケレドモ其ノ以上ニ更ニ其ノ陪臣ヘ裁判權ヲ傳ヘルコトハ許ルサナイノデアアル。

封臣トシテ封地ヲ受クルコトノ出來ル者ハ武士ノ階級ニ屬スルモノデナケレバナラヌ。完全ナル受封ノ能力ハ之ヲ Heerschild ト謂ツタノデ、Heerschild ヲ持チ居ルモノデナケレバ完全ニ封臣トナルコトハ出來スノデアアル。絶對ニ受封ノ能力ノナ

イモノハ猶太人、公權剝奪者(Geächtete)即チ犯罪ノ爲ニ法ノ保護ノ外ニ置カレタ者及ビ宗教上ノ破門ヲ受ケタ者デア^ル。此ノ外市民、農民、僧侶、女子、及ビ法人モ完全ナル受封能力ヲ持タナイノデア^ルケレドモ、獨逸ノ法デハ若シ完全ナル能力者ト共同ニシ又ハ能力者ヲ代理人トスルトキハ封地ヲ受クルコトカ出來ルモノトセラレテ居タ。其ノ封臣トシテノ責任ハ其共同受封者又ハ代理者タルモノガ負フノデア^ル。僧侶ノ中デハ僧正^{ビシヨフ}其ノ外僧界ノ藩主ノミハ例外デ是ハ其ノ身分ニ拘ラズ完全ニ受封能力ヲ有スルモノトセラレ即チ俗界ノ藩主ト同様ニ國王ノ直接ノ封臣トセラレテ居タノデア^ル。

封祿ノ設定行爲ハ舊ルクカラノ方式ニ依ツテ臣下タルベキコトヲ誓約スル行爲タル commendatio(後ニハ Hulde ト謂ツタ)即チ托身ノ行爲ト封地ヲ授與スル行爲タル investitura 即チ授與ノ行爲トノ二ノ行爲ニ依ルノデア^ル。托身行爲ハ封臣タルベキモノガ自己ノ一身ヲ主君ニ托シテ終生忠誠ナルヘキコトヲ誓約スル意思ヲ表示スルモノデ、封臣タルヘキモノガ之ヲ行ヒ封主タルヘキ者カ之ヲ受ケルノデア^ル。其ノ行爲ハ授手式(homegium)トデモ謂フベキ行爲ト宣誓式(fidelitas)トノ二ツカラ

成ルノデアツテ、授手式ハ封臣タルベキ者ガ帽ヲ脱シ劍ヲ去リテ主君ノ前ニ跪キ自己ノ兩手ヲ主君ノ手ノ間ニ置クノデアリ、宣誓式ハ封臣ガ嚴肅ノ語ヲ以テ臣下トシテ忠誠 (*treu hold und gewärtig*) ナルベキコトヲ誓フノデアル、最後ニ授與行爲ハ主君ノ方カラ之ヲ行ヒ臣下タルモノガ之ヲ受ケルノデ即チ封主カラ符號的ニ或ル物品ヲ封臣ニ授與シ同時ニ口頭又ハ文書デ封地ヲ授クルコトヲ宣言スルノデアル。其ノ符號トシテ授與セラル、物ハ劍、槍、手套、帽杖ナドノ類デ、國王ガ俗界ノ藩主ヲ封スルニハ常ニ旗ヲ以テ其ノ符號トシタ爲メ俗界ノ諸侯領ノ事ヲ普通三旗領 (*Fahnlehn*) ト稱スルコト、ナリ、又第十二世紀以後僧界ノ藩主ヲ封スルニハ常ニ劍ヲ以テスルコト、成ツタ爲メ僧界ノ諸侯領ノ事ヲ之ニ封シテ「劍領」 (*Scepterlehn*) ト稱スルコト、成ツタ。

封祿ノ設定行爲ハ封主又ハ封臣ノ死亡ノ爲ニ其ノ人ガ變ツタトキハ一々新ニ之ヲ爲スコトヲ要スルノデ即チ封祿ノ更新 (*Lehnserneuerung*) ヲ要スルノデアル。封祿ノ更新ニハ、先ツ新ニ封臣トナルベキ者ヨリ新主君ニ情願スルコトヲ要スルノデ其ノ情願ハ封主ノ死亡 (*Herrfall*) 又ハ封臣ノ死亡 (*Mannfall*) ノ時ヨリ一年ト一日

ノ内ニ之ヲ爲スコトヲ要スルノデアル。新ニ封祿ヲ設定スルニハ通常其ノ前ニ先ツ封祿契約 (contractus feudalis) ヲ爲スコトヲ要スルノデ、之ニ依リテ封祿ヲ給與スヘキ義務ヲ生スルノデアル。ケレドモ封祿ハ必スシモ常ニ封主ノ側カラ給與シタノデハナク、時トシテハ貧弱ナル土地所有者ガ其ノ土地ヲ安全ニ保有スル爲メニ有力ナル領主ニ寄進シ而シテ其領主カラ更ニ封地トシテ之ヲ受領シタコトモ少ナクナイ、之ヲ feudi oblatis ト謂フ。

封臣ガ封主ニ對シテ負フ所ノ義務ハ忠誠及ビ尊敬ノ義務 (Treue und Ehrerbietung) 軍役義務 (Heerfahrt) 參勤義務 (Hoffahrt) 及ビ裁判義務ガ其ノ重ナルモノデアル。軍役義務トハ封臣ガ封主ノ命ニ應ジ騎士トシテノ武裝ヲ爲シ封主ノ隨兵トシテ軍ニ從フノ義務ヲ謂ヒ、參勤義務トハ或ハ封主ノ裁判ニ列スル爲メ或ハ其ノ諮詢ニ應ジテ顧問ニ備ハル爲メ又ハ主家ノ儀式ニ列スル爲メ主命ニ依リテ主家ニ參勤スルノ義務ヲ謂フノデアル。又裁判義務ト謂フノハ封臣ガ封主及ビ自己ト同等ノ者ノ裁判ニ服シ又他ノ同列ノ封臣ニ對スル訴ニ付テハ自ラ裁判役トシテ封主ノ裁判ニ參列スルノ義務ヲ謂フノデアル。封臣ガ其ノ義務ニ違反シタ場合ノ制裁ハ其

ノ違反ノ特ニ重大ノ場合ニハ封祿ヲ封主ニ沒收スルノデ、是ハ例ヘバ封主ニ叛シテ兵ヲ舉ゲ封主ノ裁判ニ服スルコトヲ拒ムトイフ様ナ封主ニ對スル忠誠ヲ破ツタト認ムベキ場合ニ限ルノデ、封主ノ裁判所ニ於テ之ヲ決スルノデアアル。封主ノ側カラハ其ノ附與シタル封祿ノ享有ヲ保護シ必要アル場合ハ兵力ヲ舉ゲテモ他ノ者ノ攻撃ヨリ保護スルノ義務ガアル。封主ガ其ノ義務ニ違反シタ場合ニモ封臣ハ其ノ主從ノ關係ヲ脱シ其ノ封地ハ直グ上級ナル封主ノ臣下トシテ之ヲ享有スル權利ヲ有スルノデアアル。

封臣ハ其ノ封地ヲ他人ニ讓リ渡スコトハ出來ヌ、若シ之ヲ讓リ渡シタトキニハ封主ハ之ヲ沒收スル權利ヲ有ツテ居ル。ケレドモ其ノ封地ヲ再封 (Aberlehn) スルコトハ封主ノ許諾ナクシテ爲スコトガ出來ル。之ニ反シテ封主ノ側デハ獨逸ノ法ニ依レハ封臣ノ同意ナクシテ其ノ封主トシテノ權利ヲ他ニ讓リ渡ス權利ヲ有ツテ居タ。封臣ハ又封地ノ果實ダケヲ抵當ト爲スコトハ出來タケレドモ、土地其物ノ上ヲ抵當ニ入レルコトハ封主ノ承諾ヲ要スルノデアッタ。

封地ハ第十一世紀カラハ一般ニ相續シ得ベキ權利トシテ慣習法上ニ認メラレ

タ。相續權ヲ有スル者ハ男系ノ男子ニ限り且ツ獨逸デハ最初ニ封地ヲ受ケタ者ノ子孫ガ均シク其ノ封地ニ付テ相續權ヲ有スルノデハナク、最後ニ其ノ封地ヲ占有シテ居タ者ノ子孫ノミガ相續權ヲ有ツノデアアル。隨テ相續ヲスルノハ直系ノ卑屬親ノミデ尊屬親又ハ傍系親ニハ及バナカツタ。特別ノ契約ニ依リテ受封無能力者殊ニ女子ノ相續ヲ認メタモノモ少ナクナイ。相續ノ場合ニハ一々封祿ノ更新ヲ要スルノデ即チ授手式宣誓式ヲ新ニスルコトヲ要スルノデアアル。相續人ガ未成年者デアツタ場合ニハ其ノ成年ニ達スル迄封祿ノ更新ヲ延バシテ其ノ間ハ封主ガ其ノ封地ヲ占有シテ其ノ果實ヲ收益スル權利ガアル (Angefallerecht) (未完)